

第15回 日本SPF豚研究会 講演要旨

平成17年5月27日

食肉の安全は、と畜検査等でどの様にして護られているのか

(財)日本冷凍食品検査協会 森田邦雄

昨今、食品の安全性に対する消費者の関心は、今までに無いほど高まってきています。

消費者の食品の安全性に対する関心は、残留農薬、添加物、残留動物用医薬品等の化学物質や輸入食品に高く食中毒菌に関しては意外に低い、それは何故なのかを話します。

皆さんの考えている食品の安全性に対する関心事と消費者との間にギャップは無いのか、ギャップがあるとすれば、それを埋めるにはどうすればよいのか、そこでリスクアナリシスについて考えてみます。

リスクアナリシスの考え方で、食肉の危害(動物の病気、食中毒菌の汚染、動物用医薬品の残留)について、どの様にして排除され安全が護られているのか説明します。

と畜場出荷豚における肺炎病変部由来病原細菌の現状

動物衛生研究所 小林秀樹

豚ではPRRSやPCV2などの新しい病原体による多重感染が蔓延し、肺炎の病態が複雑化している。さらに、新たに認可されたワクチンや抗菌剤の使用もまた肺炎の病態の複雑化に拍車をかけている。一方、2004年の改正と畜場法の施行に伴い、と畜場に出荷される豚の肺炎部から分離される病原細菌の種類や頻度に関する正確で詳細な成績がないまま、特定のパスツレラ菌やボルデテラ菌によって惹起される疾病など、家伝法により監視伝染病に指定された感染症が全廃棄の対象となり全廃棄対象感染症は大幅に増加した。

今回、疾病情報を生産農家にフィードバックするため、と畜場出荷豚の肺炎由来病原細菌を調査した。検査材料は7県71農場から、と畜場に出荷された肺炎病巣を有する362頭の肺炎病巣部であり、マイコプラズマと一般細菌の分離同定およびPCRによる検出を行った。なお、細菌の分離同定は肺1gあたり概ね $>10^4$ CFUの菌種を対象として実施した。

新潟県におけると畜検査データの活用と豚衛生対策の推進

新潟県中央家畜保健衛生所 中林 大

新潟市食肉衛生検査所で平成6年度から、新潟県長岡食肉衛生検査所では平成10年から「と場検査データのフィードバック事業」が創設され、エクセルファイルによるメールでの月報が入手可能となった。家畜保健衛生所では生産者から情報提供の同意書を取り、データを加工し、肺炎、胸膜炎、心外膜炎、腹膜炎、抗酸菌症、寄生虫性肝炎等検出率の3年間分をグラフ化し、農場の巡回指導時等に説明し、改善が必要な場合は農場検査を実施している。その具体例ではMPS病変とマイコプラズマワクチンの効果検討、胸膜肺炎とAppワクチンの効果検討、豚抗酸菌症と腸管膜リンパ節膿瘍(MLA)検出率の検討、豚増殖性腸炎と小腸炎検出率の検討等、農家に対策を提示し、その後のデータにより成果を把握している。豚衛生対策に活用するばかりでなく、平成14年度から開始したHACCP方式導入促進を目的とした「クリーンポーク生産農場認定事業」で、フィードバックを受けていることを認定基準に掲げ49農場を認定し、安全・安心な畜産物の生産に努めている。

富山県におけると畜検査成績の活用事例

富山県西部家畜保健衛生所 新田正憲

とちく検査成績は、昭和50年代頃から活用している。当時、デ-タ-を記入用紙に書き写し、手計算で処理・加工を行っていたため長時間を要したが、「肝臓廃棄の多い農家での原因調査(昭和53年)」や「養豚団地の衛生指導(昭和57年)」等個別指導として用い成果を上げている。その後、パソコンが普及し家保でのデ-タ-処理・加工が容易となり、疾病別廃棄率の推移を折り線グラフにし、一目で分かるように加工したものを養豚農家に提供(平成3年~)した。更に、平成9年、食肉検査所が音声入力を取り入れたことから、デ-タ-がフロッピ-で提供され、迅速に処理・加工出来るようになり、養豚農家巡回及び経営検討会に「と畜場調査成績」として提示し衛生指導に活用している。

浜松と場における豚と畜検査データの利用

川倉獣医科クリニック 川倉裕和

浜松市食肉衛生検査所では1985年よりと畜検査結果のパソコン処理のシステムを始めた。導入目的はデータ処理の合理化にあったが、データ活用も目的のひとつでありデータフィードバックは少し遅れて1986年に始まった。そしてデータを静岡県西部家畜保健衛生所に提供し、そこで静岡県経済連浜松食肉市場データとパソコンで統合集計分析処理して農家や獣医師に配布する事業が1987年に始まり有効利用を行ってきた。しかしソフトとハードの老朽化により1988年に終了した。その後は、食検データを集計表と生データを提供してもらい独自に集計して利用している。市場データの方は、経済連からのデータを農協で独自に集計した集計表を2005年3月までは提供してもらうことができたが、個人情報保護の関係で現在ストップしている。両方のデータのリンクは実現していない。と畜検査データ利用の今後の課題と問題点は数多い。

/以上